

インターネットセキュリティ行動を促進、抑制する要因

—なぜ人はセキュリティをしないのか？—

越智啓太

(法政大学文学部)

1, 問題

インターネットを安心して使用するためには、適切なセキュリティを実施することが不可欠である。ネット経由での攻撃や情報流出、詐欺などの被害は、年々増加しており、かつ巧妙化しているにもかかわらず、十分なセキュリティ対策を行っていないものも少なくからである。このため、システム管理においては、ユーザーひとりひとりが適切なセキュリティ対策をすることを促進することが重要になってくる。人間という最弱なシステム要素をより強化するという必要性である。本研究では、個人がセキュリティ行動を行う、あるいは行わない行動に影響している要因を明らかにしてみたい。

2, 方法

調査参加者：18歳以上の男女1500名、男性750名、女性750名

調査方法：ウェブ調査

調査項目：個人属性についての質問、インターネットセキュリティ行動に関する質問、インターネットセキュリティに対する態度、認知に関する質問

3, 結果

インターネットセキュリティ行動に関する項目について因子分析をもとにして6種類の尺度を構成した。サイト閲覧・ダウンロード系リスク行動、パスワード公共系リスク行動、パスワード管理系リスク行動、フリーワイファイ系リスク行動、個人情報系リスク行動、そして、セキュリティ行動である。このうち、前3者をインターネットリスク促進行動、後3者をインターネットセキュリティ促進行動とした。また、セキュリティに対する態度・認知に関してもやはり因子分析によって、セキュリティのコスト感、セキュリティに関する社会的脅威、セキュリティ軽視、セキュリティ不安などの尺度が構成された。

次にインターネットリスク促進行動、セキュリティ促進行動を従属変数とし、インターネットセキュリティに対する態度・認知尺度14尺度の得点を独立変数とする重回帰分析を行った。変数の選択はステップワイズ法で行った。その結果、リスク行動に関しては、被害経験、コスト感覚、セキュリティリスクについての社会認識の低さ、周囲がセキュリティをないがしろにしている、自己効力感が影響していることがわかった。また、セキュリティ行動に関しては、社会認識の高さ、コスト感覚、自己効力感、セキュリティ軽視（負の相関）、周囲がセキュリティ行動に熱心という要因が影響していることがわかった。

4, 考察

本研究の結果よりセキュリティ行動を強化するためには、セキュリティ脅威の社会認識を高めることやセキュリティに対するコストを低下させることが重要だということが示された。